

みみタロウ

日本語版 ☆114号 2015年10月

しがけんこくさいきょうかいほらんていあぐるーぶ「みみタロウ」
 滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
 おおつし おおつし おおつし
 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F
 Tel/Fax : 077-523-5646
 E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
 URL : http://www.s-i-a.or.jp
 ■ : https://www.facebook.com/siabiwako

こころ

かべ

かざあな

心の壁に風穴を！

こんかい たろう ほうじんにほんはらーるしんこうかい
 今回みみタロウは、NPO法人日本ハラール振興会(<http://www.halal-solution.jp/>)滋賀事務所長の
 むはまっど ぬずらい おうみはちまんしがいじゅう あ
 ムハマド ヌズライさん(近江八幡市在住)にお会いし、お話をうかがいました。



いんどねしあ けんしゅうせい
 インドネシアから研修生として
 て来日し、滋賀に住み始めた
 のが17年前のこと。日本の
 歴史や文化が詰まつた滋賀
 が大好きです。世界中の
 ムスリムが日本に、そしてここ
 滋賀に観光に来てくれるよう、日本ハラール振興会
 では食品のハラールの認定やイスラム文化の紹介など
 の活動をしています。ムスリムは世界の様々な国に約
 18億人おり、イスラム教は平和を愛し、隣人を大切に
 する宗教です。ところが残念なことに、イスラムの名を
 持つ過激組織や国家のテロ行為のため、世界中のイス
 ラム教徒が厳しい目を向けられるということもありました。
 しかしながら、私たちを知っている人は、いつも
 と同じように温かく接してくれました。このことから、
 人と人が知り合い、心を通わせて交流し、お互いの文
 化を知ることは、とても大切だと痛感しています。

でもいざ、外国人と交流するとなると、まず言われるのが言葉の壁です。言葉が違うからつきあえない、通じないからいつも同じ国の人ばかりで固まってしまうという話。でも僕は、それは少し違うと思うのです。先に言葉の壁があるのではなくて、自分が心の壁を作つて交流を避けるので、言葉の壁も大きくなるのでは? 出会いは気持ちです。言葉が通じなくても視線や笑顔、ジェスチャーなどで心は通じるもの。この人と心を通わせたいという気持ちがあれば、わからなくとも心は不思議と通じるものなのです。言葉がわからなかつた来日当时、僕はいつもみんなが笑うと一緒にニコニコしていました。「で、わかってるの?」と聞かれると、仕方なく「わかりません」と答えていましたが。でもみんなが笑つているとわからなくともなんだか楽しくなるし、みんなと気持ちを共にすると安心でしょう? 意味がわからないということにこだわりすぎるから、心の壁がもっと高くなるように思うのです。人に対する気持ちがあれば、言葉はあとからついてくるもの。学ぶ意欲も大きくなります。僕が来日3年で日本人と結婚することができたのが良い例

ですね! 言葉が違うから臆さないで、外国人も日本人も少し勇気を出して、声をかけてみましょう。新しい人と出会い、新しい文化に触ると、自分の世界も広がりますね。

もう一つ気になっているのが、日本社会を覆っている心の壁のことです。日本には人に対し細やかな気遣いをするという素晴らしい文化があります。しかしその気遣いが過ぎて、自由な気持ちから生まれる行動が狭められている部分もあるように思うのです。本当はもっと心から楽しめるのに、気遣いが多くて楽しめない。子供達も、そちらに行くと危ないよ、こうすると失敗するよ、と行動する前に制止される。会社では肩書きなどに気を遣いすぎて人間関係にストレスを感じる。ご近所さんとも気ばかり遣つて楽しいお付き合いができるなど。行きすぎた気遣いが、社会を窮屈で息苦しいものにしていないでしょうか。こんなことを言つたらどう思われるか、でしゃばると失礼になると気を回し過ぎて、気軽に人に声をかけられず、困っている人がいても手をさしのべることもなかなかできない言葉に困ることもあります。イスラム教では、貧しい人に食べ物をあげたり、困つて手をさしのべるのがあたりまえで、僕も一人暮らしのお年寄りに声をかけたり、大したものじゃなくても家の料理をお裾分けしたりします。で、そうすると、やはりみなさんとでも喜んでくださるんですよ。真面目で思ひやりがある日本人を僕はとても尊敬していますが、もう少し心の壁を取り払つて風通しをよくすると、日本はもっともっと楽しい社会になるはずです。人は人と心を通わすことで、心が満たされ、地域や世界とつながります。まずは、一人一人が心の壁に風穴を開け、一緒に温かい社会を作りましょう!

僕の大きな夢は、地域や世界の人たちが幸せに暮らせるために役立つことです。今は地域の人や世界の人たちが交流できるイベント作りや、母国の貧しい人々が豊かになるようなシステム作りを模索しているところです。僕自身はとても小さく、何もできませんが、多くの人と力を合わせて、夢にむかって歩んでいきたいと思っています。